年次報告書 2021

上越教育大学学校教育実践研究センター

巻頭言

学校教育実践研究センターは，教育実習の推進，臨床的・実践的・開発的研究の推進，学校および地域社会との連携・支援を柱とし，大学と地域・学校とのハブ的な役割を果たしています。

昨年度から続く新型コロナウィルスの蔓延によって，今年度も当センターの事業内容を変更しなければなりませんでした。

しかし，昨年度の経験やチームワーク，そして何よりも地域や学校との強い信頼関係から，様々な事業に取り組むことができました。

これらの事業は，近隣あるいは遠隔地にある教育委員会をはじめ，実習に協力してくださる多くの学校の協力なしには継続することができませんでした。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年度大きく変更して実施した事業は，教育実践研究発表会です。昨年度は新型コロナウィルス感染の拡大によって，中止せざるを得ませんでしたが，今年度は完全オンラインで開催しました。実施する側も初めてのことであり，準備の段階からいろいろと検討事項が山積みで苦労しましたが，学校実習課のみなさんのきめ細かなサポートがあり，大きなトラブルなく，実施することができました。大変ありがとうございました。

当日は，発表者 32 名，参加者 131 名の計 163 名と，例年になく多くの参加がありました。コロナ禍にあっても常に学び続けようとする教育現場の先生方の熱意を感じ，大変うれしく思いました。遠方からの参加も多く，オンラインの良さを感じることができました。

来年度以降ついても，オンライン・対面それぞれの長所短所を考えながら，より良い開催方法について検討していきたいと考えています。

本報告書は令和 3 年度の学校教育実践研究センターの取組をまとめたものです。

ご一読いただき，当センターの取組について知っていただければ幸いです。

（学校教育実践研究センター長　中野博幸）

１．プロジェクト研究

コロナ禍における教育実習

学校現場では，日々さまざまな課題に直面し，その対応を求められています。
学校教育実践研究センターでは，教育実習や学校実習などの指導・支援や地域全体の教育の質向上に向けて，様々な実践と研究を行っています。

研究発表３

令和２年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ

谷内　卓生・杉谷　明（上越教育大学）

1　はじめに

本学は実習校・教育委員会・大学間の連携システムが確立されているため，毎年 50 校以上で初等教育実習を実施している。今年度は実習生 230 名が上越市・妙高市・糸魚川市など 72 校で実習を行った。このシステムによって全体の 80%以上の学生が異なる学校・学級に 1 人ずつ配属され，より多くの授業を受けもち，指導教員から 1 対 1 の指導を受けている。

昨年度，このシステムが大きく揺らぐ事態となった。新型コロナウイルス感染症の大流行である。まずは春の実習を秋にずらすことで対応したが，夏を過ぎても感染状況は落ち着かず，いよいよ実施の可否を検討しなければならなくなった。本学はこれまでの取組から 200 名以上の実習生を近隣の数校に振り分けるなどの対応策は考えられなかった。校長会や教育委員会との協議の結果，全ての実習校で 10 月に観察実習を 5 日間行うことになった。残りの実習は 10 日間の学内プログラムを実施した。

以下，学内プログラムの成果と課題を考察し，それらを今年度の取組にどう生かしたかを述べる。

2　学内プログラムについて

(1) 学内プログラムの内容

学内プログラムを作成する際，解決すべき課題としたのは①10 月から始まる後期授業に重ならないように 9 月中に終わらせること，②初等教育実習と中等教育実習を合同で行うプログラムをつくること，③可能な限り学生の授業実践力を高めるプログラムをつくることなどであった。そして次の 6 つの活動の柱としたプログラムが完成した。①オンデマンド式講義（10 時間），②オンデマンド式授業参観（2 時間），③ビデオレターの作成（2 時間），④リフレクション（6 時間），⑤学生同士による模擬授業（10 時間），⑥オンライン授業実践（10 時間）である。※ 詳細は参考資料参照。

(2) 学内プログラムの成果と課題

成果①　学内プログラムの内容の良さが学生の主体性を高めていた。インプットとアウトプットのバランス，個人的な学びと協働的な学びのバランスが一方に偏ることなく行われた。

成果②　「模擬授業」や「オンライン授業実践」においてグループで取り組ませたところ，互いの授業観や授業スキルを交流させ，高め合う姿が見られた。

成果③　オンライン授業実践を通して ICT 活用能力が高まった。今の学生はどの子も ICT 機器に慣れているように思われているが，知識や技能が十分ではない学生もいる。

課題①　取組の意識に個人差が大きかった。大学で仲間と行うプログラムは，実習校での実習と違って緊張感が少ないため，環境に甘えて受動的に学んでいる学生がいた。

課題②　本来の実習なら一校時分の授業を 8 時間以上行うことができたが，「模擬授業」では 1 人あたり 20 分の授業を 2 回行うことしかできなかった。そのため，自分の授業と向き合う時間が極めて少なく，実践力の向上を図るには不十分であった。

課題③　実習校や実習生に感染者が出ても，安全・安心に実習を行えるシステムをつくること。

(3) 学内プログラムの柱⑥「オンライン授業実践」について

オンライン授業実践では，230 名の実習生が 24 のグループに分かれ，大学から附属小学校の各教室へオンラインで道徳の授業を試みた。１つの授業を 10 名のグループで構想させることや方法や手順が確立していないオンライン授業を構想させることに不安があったが，学生は驚くほど熱心に取り組んだ。指導案が完成すると，手際よく作業を分担した。終盤には二つのパソコンを Web 会議システムでつなぎ，授業者と学習者の目線から授業に修正を加えた。

＜実習生の感想＞
○オンラインで授業を行うことの難しさを実感した。カメラの配置により板書の仕方が変わってくるため，どのように板書をすると見やすいのかを考えたり，カメラを２つ用いて黒板とホワイトボードを活用したりした。
○オンラインの方法だけではなく，共同作業の面白さや苦労，みんなが持つ様々な視点も知ることができた。十人十色という言葉があるようにいろんな視点を知ることができたので，後の模擬授業にも生かすことができた。
○実際に授業すると予想外のことも起こるため，臨機応変な対応力が大切だと思った。
○改めて生徒の反応を直接感じ取ることや机間指導の大切さを学んだ。その中でもねらいや目的を明確にすることやチームだからこそ達成することが出来た活動があったので大切にしていきたい。

＜附属小学校副校長の感想＞
○普段の授業よりオンライン授業の方が実習生の気持ちがよく伝わった。

(4) 大学で「オンライン授業」を指導することの意義

大学でオンライン授業を指導することの意義は，学生のオンライン授業の知識や技能を高めるためだと言える。GUGA スクール構想が急速に進んでいる今日，授業における ICT 機器の活用方法を大学の教員養成課程の段階で学んでおく必要がある。一定の ICT 活用力が身に付けば，いずれ若手教員となる学生たちは各学校でオンライン授業を広める役割を担っていく。若手教員の ICT 活用力とベテラン教員の授業力を繋ぐことができれば，各学校で質の高いハイブリッド型授業が創造される。

もう一つは，学生の「机間指導の大切さを学んだ」という言葉から推察されるように，対面授業の良さやポイントも浮き彫りになるということである。オンライン授業は，対面授業と比べると制限が多い。例えば，パソコンのモニターでは子どもの反応が見えにくいので，児童の表情や行動をよく観察したり，ハンドサインなどで意思表明させたりしなければならない。授業者の姿や声は，モニターやスピーカーの性能に左右されるので，できるだけ大きく，ゆっくり，はっきりと示す必要がある。このようにオンライン授業の不便さを克服しようとすると，自ずと授業づくりの大切な観点が浮き彫りになるのである。学生たちは，オンライン授業を構想する過程で「対面授業で大切にすべきこと」に気付き実践していたと考えられる。それらを意識して実践したことで「気持ちがよく伝わる授業」になったのである。

3　今年度の改善点

改善①　学部２年生が指導案作りや模擬授業を行う「教育実地研究Ⅱ」の授業に，教育効果が高かったオンライン授業を作成する活動を３時間取り入れた。

改善②　新型コロナウイルス感染症対応のフローチャートを作成し実習校と共有した。そこでは，感染者が出てもその濃厚接触者がいない実習校はそのまま実習を続けてよいことになっており，昨年度の問題点を改善している。

改善③　新しい「学内プログラム」の案を作成した。コロナ禍での教育実習は同一期間であっても学生によって実習できた日数が異なってくる。その中で学内プログラムが実施されるとすれば，昨年度のような全員が同じプログラムを行うやり方では対応できない。そこで，自分の足りない実習時間を用意された授業メニューから自主選択し受講する「カフェテリア方式」と，Web 会議システムのミーティングを仮想学校に見立て，ブレイクアウトルームを自分たちの学級として朝の会から帰りの会までを自主的に過ごす「バーチャル学校方式」を作成した。本年度は，全員が配属校で教育実習を実施することができたため，利用することはなかった。

参考文献

・「令和２年度　初等・中等教育実習　学内プログラム報告書」上越教育大学，令和３年３月
※ 同報告書の抜粋版は以下の URL から見ることができる。
https://www.juen.ac.jp/080faculty/files/R2gakunaipuroguramu.pdf

令和2年度における
教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ

上越教育大学　特任准教授　谷内　卓生
杉谷　明

1

◇ 本学の教育実習の特徴①　小学校実習における分離方式

担任や児童を観察し学校生活に慣れ、9月に担当する授業（8時間分）を決め、その作成を研究期間に行うことができる。

3年
- 教育実施研究Ⅲ 小学校実習（必修）
- 学校ボランティアB（選択）

4年
- 教職実践演習（必修）
- 中学校実習（選択）
- 教員採用試験
- 総合インターンシップ（選択）

5月
- 実習校との面談　1～2時間　5月
- 観察実習　5日間　5月末
- 研究期間　6月～8月

9月
- 本実習　15日間　8月末～9月末

※ 実習校からの要望があれば、引き続き、ボランティア活動として学校の中で活動できる。

担任や児童との関係もできている。指導案がほぼ仕上がっている状態なので、余裕をもって実習ができる。

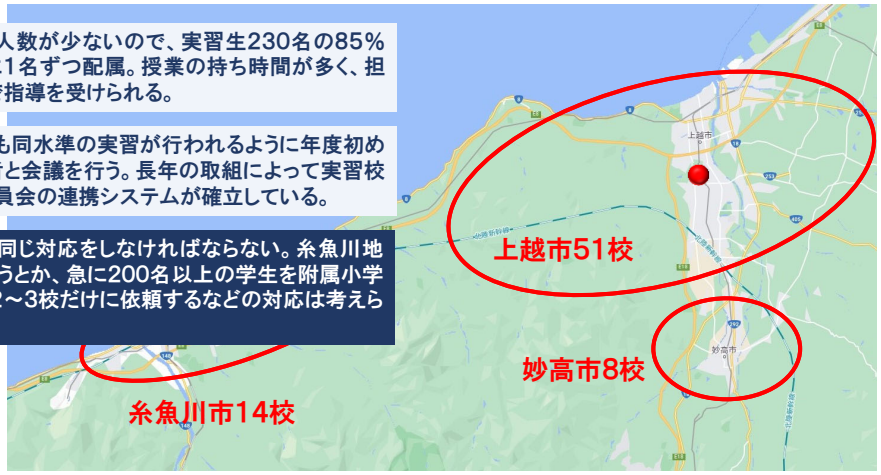
2

◇ 本学の教育実習の特徴②　地域と連携した教育実習　　230名分の実習を77校で実施（2021）

1校への配属人数が少ないので、実習生230名の85%が異なる学級に1名ずつ配属。授業の持ち時間が多く、担当教員と1対1で指導を受けられる。

どの実習校でも同水準の実習が行われるように年度初めに各校の代表者と会議を行う。長年の取組によって実習校と大学と教育委員会の連携システムが確立している。

全て実習校に同じ対応をしなければならない。糸魚川地区だけ実習を行うとか、急に200名以上の学生を附属小学校と大学近くの2～3校だけに依頼するなどの対応は考えられない。



佐渡市
1校

十日町市
1校

魚沼市
1校

埼玉県
大宮市
1校

3

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇　令和2年度 学内プログラムの内容　～経緯～

昨年の春、コロナ禍のため観察実習中止。中学校実習は小学校と同時に秋に実施することになった。お盆が明けた8月18日。実習10日前。実習生が新型コロナウイルスに感染したことが判明。活動制限がレベル3に上がり、教員は自宅待機、学生は登校禁止、授業は対面禁止となる。

20日、「学生の新型コロナウイルス感染に伴う初等・中等教育実習及び学校実習の対応について」という文書を配付し、実習校に実習日程を全て取り消すことを伝える。同時に学生には、確認相談会や事前指導の延期と共に実習校を訪問することを禁止。

1週間後の26日、学校現場での通常の教育実習は実施せず、大学で代替プログラムを実施することが決定。「学内プログラム」の計画と実施が始まる。

4

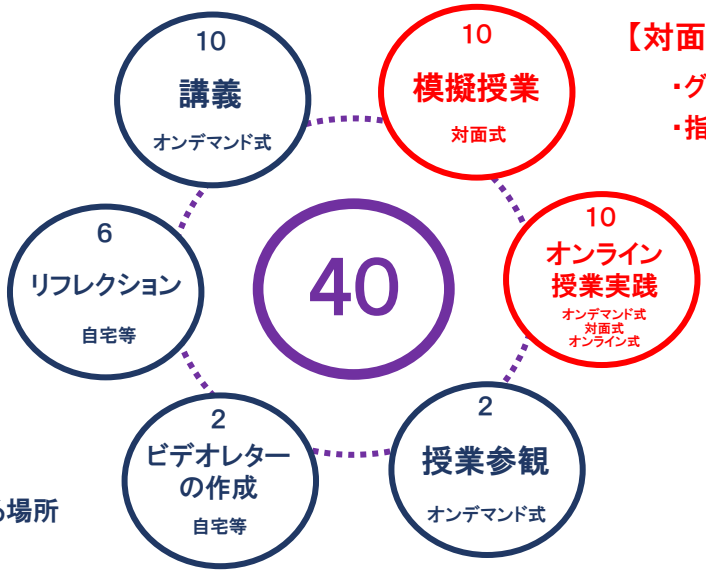
◇ 令和2年度 学内プログラムの内容　～経緯～

課題①　10月から後期授業。9月中に終わらせるプログラムをつくる。（大学での対面授業可）
課題②　小学校実習・中学校実習、合同のプログラムをつくる。（計400名）
課題③　可能な限り、学生の授業実践力を高めるプログラムをつくる。

40

実習校と協議した結果、10月に5日間の観察実習を行えることになった。
よって10日分の学内プログラム（＝大学の授業40コマ分）を編成することになった。

5



【対面式】
・グループで実施
・指定された教室を利用

【オンデマンド式】
【オンライン式】
・自宅で受講可
・大学の空いている場所

6

◇ 令和2年度 学内プログラムの内容　～6つの柱～

10
講義
オンデマンド式

学校教育の基本事項を習得するため、講師役を附属小学校と大学の教員に依頼し、作成された動画をGoogleのclassroomを通じて配信した。受講後、Googleフォームで200字程度の感想を書かせた。

2
授業参観
オンデマンド式

見本とすべき授業をオンデマンドで参観する時間を設定した。東京学芸大学・次世代教育研究推進機構による授業動画配信サービス「21CoDOMoS（トゥエンティワンコドモス）」にある授業から興味があるものを2つ選択させ視聴するようにした。視聴後、Googleフォームで感想を書かせた。

7

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇ 令和2年度 学内プログラムの内容　～6つの柱～

2
ビデオレター
の作成
自宅等

実習校の児童に向けて5分程度のビデオレターを作成した。メッセージと共に1回目の模擬授業の様子を2分程度含めるようにした。提出された動画を確認すると、著作権や肖像権に抵触している動画、また小学生の視聴にふさわしくない動画が幾つか見られた。一つ一つに指導を入れたため時間がかかったが、情報リテラシーを学ぶ良い機会となった。

6
リフレクション
自宅等

1日の活動を振り返り、活動内容や学んだことを実習記録簿や教職キャリアファイルへ記入する時間を設定した。「ビデオレターの作成」と合わせて8時間とし、ビデオレターの作成の時間としても使えるようにした。

8

◇ 令和2年度 学内プログラムの内容　～6つの柱～

10 模擬授業
対面式

実践力を高めるため、学生同士で授業を見せ合う模擬授業の時間を設定した。10人で構成するグループを24グループ作り、1人につき授業時間20分＋協議時間25分とし，90分に2名が発表できるようにした。
1回目の模擬授業を「模擬授業①」として5時間、2回目の模擬授業を「模擬授業②」として5時間行った。グループ担当教員は複数のグループを巡回しながら指導と評価を行った。

10 オンライン授業実践
オンデマンド式
対面式
オンライン式

実践力とICT活用力の向上を図るため、オンラインで附属小学校の児童に向けた道徳の授業を実践する時間を設定した。
授業当日は共同ミーティングルームで待機し，時間になったらスタジオに入りWeb会議システム（Zoom）を活用して30分の授業を行った。全24グループが附属小学校の12学級に2グループずつ入った。活動の評価はグループ担当者とスタジオ担当者が行った。

9

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇ 令和2年度 学内プログラムの内容　～日程表～

オン＝オンライン授業実践　V＝ビデオレター作成
模1＝模擬授業1回目　R＝リフレクション
模2＝模擬授業2回目

	11 金	14 月	15 火	16 水	17 木	18 金	23 水	24 木	25 金	28 月	29 火	30 水
1限	オン1 オンデ式	オン5 対面式	模1① 対面式	模1③ 対面式	模1⑤ 対面式	大学院入試	オン7 対面式	オン9 オンライン実践	3年次研修	模2① 対面式	模2③ 対面式	模2⑤ 対面式
2限	オン2 対面式	オン6 対面式	模1② 対面式	模1④ 対面式	VTR① オンデ式		オン8 対面式	オン10 対面式		模2② 対面式	模2④ 対面式	VTR② オンデ式
3限	オン3 対面式	講義1 オンデ式	講義3 オンデ式	講義5 オンデ式	準備		講義7 オンデ式	講義9 オンデ式		後半 12G	後半 12G	
4限	オン4 対面式	講義2 オンデ式	講義4 オンデ式	講義6 オンデ式			講義8 オンデ式	講義10 オンデ式				
5限	V・R1	V・R2	V・R3	V・R4	V・R5		V・R6	V・R7		V・R8	V・R8	V・R5

前半5日間　18日（金）～22日（火）5連休　後半5日間

10

◇ 令和2年度 学内プログラムの内容　～成果と課題～

成果①　学内プログラムの内容の良さが学生の主体性を高めていた。インプットとアウトプットのバランス。個人的、協働的な学びのバランス。

成果②　授業づくりは個人的な活動。しかし「模擬授業」や「オンライン授業実践」をグループで取り組ませたことで、互いの授業観や授業スキルを交流させ高め合う姿が見られた。

成果③　「オンライン授業実践」を通してICT活用能力が高まった。今の学生は、どの子もICTに慣れているように思われているが、苦手な学生もかなりいる。

課題①　取組の意識に個人差が大きかった。大学で仲間と行うプログラムは、実習校での活動と違って緊張感がないため、環境に甘えて受動的に学んでいる学生がいた。

課題②　「模擬授業」では、1人当たり20分の授業を2回行っただけ。本来の実習なら45分の授業を8時間以上行えるのに。自分の授業と向き合う時間が極めて少ない。

課題③　コロナ禍であっても、できる限り多く実習を行えるシステムをつくる必要がある。令和2年度はたった2人の感染者が出ただけで400名の実習が中止となった。

11

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇ 「オンライン授業実践」の内容

【1時間目】　講義「オンライン授業について」
【2時間目】　オンライン授業の授業構想
【3時間目】　授業構想に関わるグループディスカッション
【4時間目】　授業のねらい，展開の具体について
【5時間目】　授業に関わる教材・教具の構想
【6時間目】　授業に関わる教材・教具の制作
【7時間目】　授業に関わる板書計画・プレゼン計画
【8時間目】　授業に関わる板書練習・プレゼン作成
【9時間目】　実践
【10時間目】　反省会及びレポート作成

○学生230名、附属小12学級（2×6学年）
○カメラ・マイクは6セット。各学年に1セット。
○1日で全ての授業を終わらせる。

▲附小の子どもたちの大切な授業時間。
▲オンライン授業の指導法が未確立。
▲1つの指導案を10名のグループで作成。

班No.	クラス	限	授業時間	限	授業時間	スタジオ	準備時間
Ⅲ1	1の1	2	9:20-9:50			2講202	8:40-9:20
Ⅲ2	1の2			4	10:45-11:15		10:05-10:45
Ⅲ3	1の1	6	11:55-12:25				11:15-11:55
Ⅲ4	1の2			7	13:55-14:25		13:15-13:55
Ⅲ5	2の1	2	9:20-9:50			2講103	8:40-9:20
Ⅲ6	2の2			4	10:45-11:15		10:05-10:45
Ⅲ7	2の1	6	11:55-12:25				11:15-11:55
Ⅲ8	2の2			7	13:55-14:25		13:15-13:55
Ⅲ9	3の1	2	9:20-9:50			2講104	8:40-9:20
Ⅲ10	3の2			4	10:45-11:15		10:05-10:45
Ⅲ11	3の1	6	11:55-12:25				11:15-11:55
Ⅲ12	3の2			7	13:55-14:25		13:15-13:55
Ⅲ13	4の1	2	9:20-9:50			人101	8:40-9:20
Ⅲ14	4の2			4	10:45-11:15		10:05-10:45
Ⅲ15	4の1	6	11:55-12:25				11:15-11:55
Ⅲ16	4の2			7	13:55-14:25		13:15-13:55
Ⅲ17	5の1	2	9:20-9:50			人204	8:40-9:20
Ⅲ18	5の2			4	10:45-11:15		10:05-10:45
Ⅲ19	5の1	6	11:55-12:25				11:15-11:55
Ⅲ20	5の2			7	13:55-14:25		13:15-13:55
Ⅲ21	6の1	2	9:20-9:50			人205	8:40-9:20
Ⅲ22	6の2			4	10:45-11:15		10:05-10:45
Ⅲ23	6の1	6	11:55-12:25				11:15-11:55
Ⅲ24	6の2			7	13:55-14:25		13:15-13:55

12

◇「オンライン授業実践」の内容　～授業づくりに意欲的に取り組んだ実習生～

・4月、免許が取れるのか不安という声・・・
・盆過ぎから3週間自宅待機・・・
・教育実習を楽しみにしていたのに・・・

〇ストレスを発散するかのように熱心に取り組む！コミュニケーション力にも感心。

13

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇「オンライン授業実践」の内容　～授業づくりに意欲的に取り組んだ実習生～

14

◇「オンライン授業実践」の内容　～授業づくりに意欲的に取り組んだ実習生～

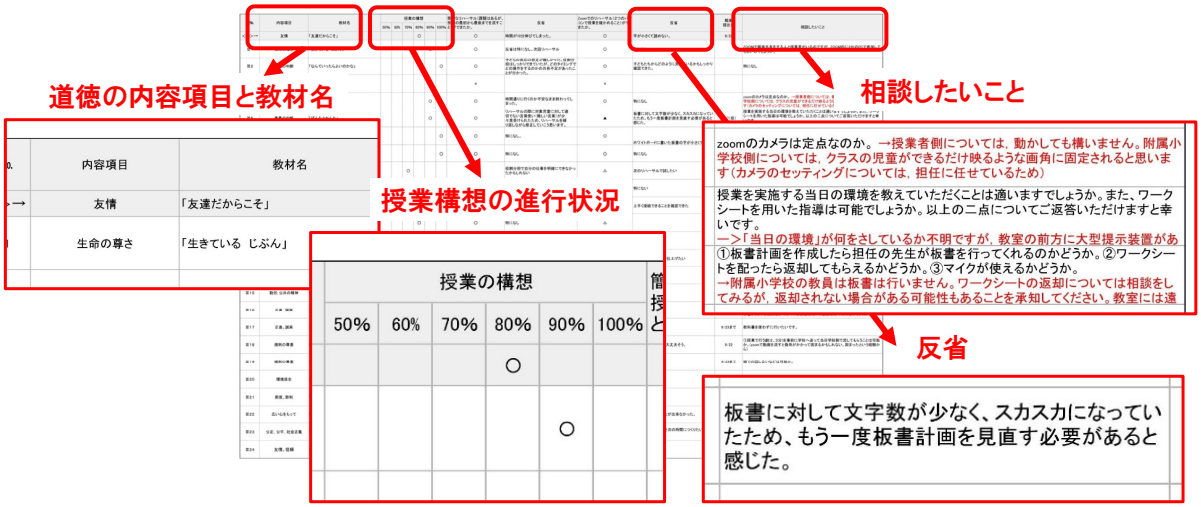
15

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇「オンライン授業実践」の内容　～授業づくりに意欲的に取り組んだ実習生～

16

◇「オンライン授業実践」の内容　～スプレッドシートで進行状況を共有～

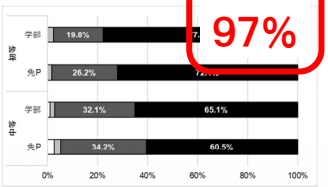


17

◇「オンライン授業実践」の内容　～アンケートの結果～

○ 班員として協力することができた

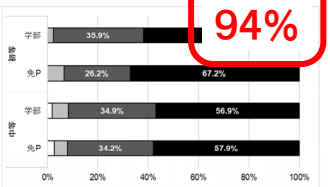
		1	2	3	4
初等	学部	0	3	26	102
		0.0%	2.3%	19.8%	77.9%
	免P	0	1	16	44
		0.0%	1.6%	26.2%	72.1%
中等	学部	1	2	35	71
		0.9%	1.8%	32.1%	65.1%
	免P	1	1	13	23
		2.6%	2.6%	34.2%	60.5%



協力

○コンピュータや黒板などの使い方を工夫した

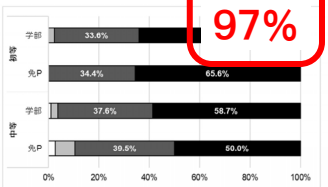
		1	2	3	4
初等	学部	0	3	47	81
		0.0%	2.3%	35.9%	61.8%
	免P	0	4	16	41
		0.0%	6.6%	26.2%	67.2%
中等	学部	2	7	38	62
		1.8%	6.4%	34.9%	56.9%
	免P	1	2	13	22
		2.6%	5.3%	34.2%	57.9%



工夫

○本番の授業で自分の役割を果たすことができた

		1	2	3	4
初等	学部	0	3	44	84
		0.0%	2.3%	33.6%	64.1%
	免P	0	0	21	40
		0.0%	0.0%	34.4%	65.6%
中等	学部	1	3	41	64
		0.9%	2.8%	37.6%	58.7%
	免P	1	3	15	19
		2.6%	7.9%	39.5%	50.0%



役割

18

◇「オンライン授業実践」の内容　～学生たちの感想～

○オンラインで授業を行うことの難しさを実感した。カメラの配置により板書の仕方が変わってくるため，どのように板書をすると見やすいのかを考えたり，カメラを2つ用いて黒板とホワイトボードを活用したりした。

○オンラインの方法だけではなく，共同作業の面白さや苦労，みんなが持つ様々な視点も知ることができた。十人十色という言葉があるようにいろんな視点を知ることができたので，後の模擬授業にも生かすことができた。

○実際に授業すると予想外のことも起こるため，臨機応変な対応力が大切だと思った。

○改めて生徒の反応を直接感じ取ることや机間指導の大切さを学んだ。その中でもねらいや目的を明確にすることやチームだからこそ達成することが出来た活動があったので大切にしていきたい。

○参観した附属小副校長の言葉・・・「普段の授業よりオンライン授業の方が実習生の気持ちがよく伝わった」

19

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇「オンライン授業実践」の内容　～大学でオンライン授業を実践することの意義～

10
オンライン授業実践
オンデマンド式
対面式
オンライン式

対面授業の指導技術向上のため

○机間指導の大切さを学んだ。
○オンライン授業の方が気持ちがよく伝わる。

対面授業の良さやポイントが浮き彫りになる。

○パソコンのモニターでは子どもの反応が見えにくい。
→児童の表情や行動をよく観察する。
→ハンドサインなどで意思表明させる。

○授業者の姿や声は、機器の性能に左右される。
→できるだけ大きく、ゆっくり、はっきりと話す。

○視覚情報がモニターの大きさに制限される。
→学習に必要なことを精選して大きく示す。

オンライン授業の指導技術向上ため

授業におけるICT機器の活用方法を大学の教員養成課程の段階で学んでおく。

一定のICT活用力が身に付けば、いずれ若手教員となる学生たちは各学校でオンライン授業を広める役割を担っていく。

若手教員のICT活用力とベテラン教員の授業力を繋ぐことができれば、質の高いハイブリッド型授業が創造される。

← 対面授業の基礎的指導技術をより強く意識して実践したことで、「気持ちがよく伝わった」のではないか。

20

◇ 今年度の改善点　～昨年度の成果と課題を生かして～

①学部2年生の授業である実地Ⅱに、オンライン授業を作成する授業を取り入れた。

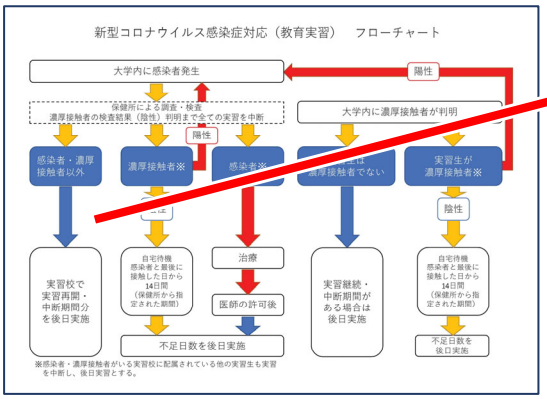
								Z-③	Z-③	Z-③	Z-③	
22	11月24日	水	4	OL模擬授業 3-①	OL模擬授業 3-①	OL模擬授業 3-①	OL模擬授業 3-①					C3
			5					OL模擬授業 3-①	OL模擬授業 3-①	OL模擬授業 3-①	OL模擬授業 3-①	
	12月1日	水	-	なし								
23	12月8日	水	4	OL模擬授業 3-②	OL模擬授業 3-②	OL模擬授業 3-②	OL模擬授業 3-②					C3
			5					OL模擬授業 3-②	OL模擬授業 3-②	OL模擬授業 3-②	OL模擬授業 3-②	
	12月15日	水	45	予備日								

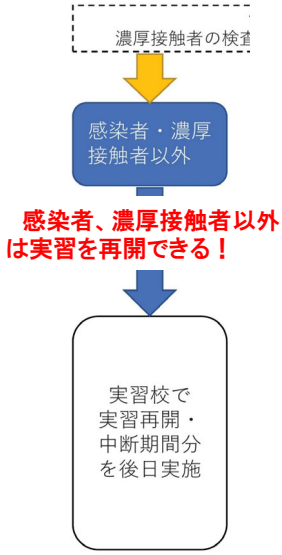
21

令和2年度における教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ　令和3年10月1日　上越教育大学

◇ 今年度の改善点　～昨年度の成果と課題を生かして～

②新型コロナウイルス感染症対応のフローチャートを作成し、実習校と共有した。感染者が出ても「全実習中止」にはならない。





22

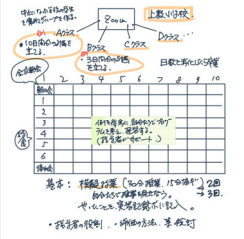
◇ 今年度の改善点　～昨年度の成果と課題を生かして～

③新しい学内プログラム案を作成した。

コロナ禍では学生によって実習できた日数が異なる。この状態で「全実習中止」となった時に対応できる案が必要。

【B】バーチャル学校方式

カフェテリア方式の問題は、早々に実習中止となった学生が学内プログラム開始までずっと待たさせること。
そこで、Zoomのミーティングを仮想学校に見立て、ブレイクアウトルームで自分たちで時間割を決め、朝の会から帰りの会まで過ごす方式を考案。
足りない日数を過ごしたら終了。



【A】カフェテリア方式

自分の足りない実習時間を補う授業を、用意されたメニューから自主選択し、補充する方式。授業は主に「模擬授業」と「オンデマンドの講義」。Googleフォームで申告させる。

A	B	C1	C2	D	E	F	G
0日		90	86	30(3回)	20(10コマ)	20(10コマ)	16(8コマ)
1日	6	84	80	30(3回)	20(10コマ)	20(10コマ)	10(5コマ)
2日	12	78	74	30(3回)	20(10コマ)	20(10コマ)	4(2コマ)
3日	18	72	68	30(3回)	20(10コマ)	18(9コマ)	
4日	24	66	62	30(3回)	20(10コマ)	12(6コマ)	
5日	30	60	56	30(3回)	20(10コマ)	6(3コマ)	
6日	36	54	50	30(3回)	20(10コマ)		
7日	42	48	44	30(3回)	14(7コマ)		
8日	48	42	38	30(3回)	8(4コマ)		
9日	54	36	32	30(3回)	2(1コマ)		
10日	60	30	26	20(2回)	6(3コマ)		
11日	66	24	20	20(2回)			
12日	72	18	14	10(1回)	4(2コマ)		
13日	78	12	8		8(4コマ)		
14日	84	6	2		2(1コマ)		
15日	90						

例えば本実習を6日間行うことができたとする。残りの9日分を学内プログラムで行う場合、不足している 50 時間のうち、まず 30 時間を模擬授業3回で消化する。加えて対面講義 10 コマ全てを選択し 20 時間消化する。30＋20＝50 となり本実習の不足分を学内プログラムで補ったことになる。

3 学内プログラムの時間割

	9月27日(月)	9月28日(火)	9月29日(水)	9月30日(木)	10月1日(金)
1限	模擬授業① 1-2人目	対面講義① 田内	模擬授業② 1-2人目	対面講義⑥ 神村	模擬授業③ 1-2人目
2限	模擬授業① 3-4人目	対面講義② 梅津	模擬授業② 3-4人目	対面講義⑦ 荒川	模擬授業③ 3-4人目
3限	模擬授業① 5-6人目	対面講義③ 利谷	模擬授業② 5-6人目	対面講義⑧ 長谷川	模擬授業③ 5-6人目
4限	模擬授業① 7-8人目	対面講義④ 荒木	模擬授業② 7-8人目	対面講義⑨ 大野	模擬授業③ 7-8人目
5限	模擬授業① 9-10人目	対面講義⑤ 森	模擬授業② 9-10人目	対面講義⑩ 小林	模擬授業③ 9-10人目

△ 模擬授業 3 回、対面講義 10 回、全 25 コマを受講するのはキツイように思った。

23

令和2年度における
教育実習学内プログラムの成果・課題から改善へ

上越教育大学　特任准教授　谷内　卓生
杉谷　　明

24

2. 教育実践研究発表会

学校教育に関する理論的・実践的知識を集積し，それを活用できるようにすることで，学校教育全般の質の向上に資することを目的として，当センターに編集委員会を設け，毎年「教育実践研究」を発刊しています。本年度,「教育実践研究　第 32 集」掲載論文の募集を行い，147 の応募があり，審査の結果，44 編の掲載を決定し刊行しました。

また，令和２年度に刊行した論文集「教育実践研究　第 31 集」に掲載した研究成果を，より多くの学校現場の先生に共有していただくため，論文執筆者による「第 19 回教育実践研究発表会」を令和３年７月 30 日（金）にオンラインで開催しました。発表者 32 名，参加者 131 名の計 163 名の参加がありました。「教育実践研究」の掲載論文は，次のサイトで閲覧できます。　http://www.educ.juen.ac.jp/library/

第 19 回教育実践研究発表会プログラム

日時　令和３年７月３０日（金）10:00～15:35
実施方法　オンライン（Zoom）
受　付　9:30～10:00（Zoom ミーティングに参加）
開会式　10:00～10:15　学長あいさつ
発表会　10:25～15:15（12:00～13:10 昼食休憩）
閉会式

〇第一分科会

① 10:25～10:45 ＜国語＞ **金子 善則（上越市立大手町小学校）**
「アプロプリエーションとしての学びを促す対話的交流の工夫～読みの交流を促す〈問い〉を用いた実践を通して～」

② 10:50～11:10 ＜国語＞ **松﨑 祐太（柏崎市立荒浜小学校）**
「拠り所となる言葉による見方・考え方を更新しながら物語の読みを創る学習過程の要件～ズレが生じる「判断課題」と「問い」のつながりに着目して～」

③ 11:15～11:35 ＜社会＞ **栗田 明典（南魚沼市立六日町小学校）**
「多様な人の現状を踏まえて社会への関わり方を選択・判断する児童を育成する小学校社会科授業－第 4 学年「ごみはどこへ」の実践を通して－」

④ 11:40～12:00 ＜社会＞ **駒谷 泰成（長岡市立中島小学校）**
「小学校社会科における主体的・対話的で深い学びからの授業改善～資料の読解から「思考のずれ」を修正し、問題解決へと導く～」

⑤ 13:10～13:30 ＜外国語＞ **髙橋 遼（南魚沼市立六日町小学校）**
「進んで文字を読もうとする意識を育む｢読むこと｣の研究～ジョリーフォニックスを用いた指導を通じて～」

⑥ 13:35～13:55 ＜外国語＞ **中村 岳（糸魚川市立青海中学校）**
「ショートエクササイズを活用した小学校外国語の指導　～計量テキスト分析を用いた事例的検討～」

⑦ 14:05～14:25 ＜外国語＞ **野口 裕太（新潟大学附属長岡中学校）**
「明示的なリスニングストラテジー指導で，生徒の聴解力は高まるのか?」

⑧ 14:30～14:50 ＜家庭＞ **野池 知枝美（上越市立城東中学校）**
「「体験活動」や「協働型学習」を通して、自らの考えを深める生徒の育成－「絵本の読み聞かせ」と「幼児の育つ環境を考える」学習の導入の工夫－」

〇第二分科会

① 10:25～10:45 ＜理科＞ **玉木 政彦（妙高市立新井中央小学校）**

「五官(感)を働かせ，児童の見方・考え方を喚起する観察の指導」

② 10:50～11:10 ＜理科＞ **小山 明伯（柏崎市立東中学校）**

「新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けた授業づくりー協働的な学習により生徒が自分の考えを深める活動を通してー」

③ 11:40～12:00 ＜算数・数学＞ **早川 裕貴（長岡市立神田小学校）**

「既存の授業でプログラミング的思考力を高める指導方法の工夫－４年「垂直・平行と四角形」の授業を通してー」

④ 13:10～13:30 ＜算数・数学＞ **清水 賢志（長岡市立前川小学校）**

「小学校算数科における構造的・体系的思考及びそれに関する態度の育成ー「コンセプトマップ」の作成と振り返りに着目してー」

⑤ 13:35～13:55 ＜算数・数学＞ **村田 裕昭（長岡市立栖吉小学校）**

「解法の理解を通して児童が自力で問題に取り組むようになる指導の工夫」

⑥ 14:05～14:25 ＜道徳＞ **樋口 智哉（十日町市立十日町小学校）**

「自己を見つめ，自己の生き方について考えを深める子の育成～疑似体験「役割演技」を通した話合い活動から～」

⑦ 14:30～14:50 ＜道徳＞ **西脇 悠太（長岡市立表町小学校）**

「1 人 1 人が考えを表出し，主体的参加を促す道徳授業を目指した取組」

⑧ 14:55～15:15 ＜理科＞ **鎌倉 正和（長岡市立四郎丸小学校）**

「主体的に追究する児童を目指して～小学校第３学年「じしゃくのひみつ」における実践～」

〇第三分科会

① 10:25～10:45 ＜特別支援教育＞ **梅澤 京子（上越市立大町小学校）**

「小学校特別支援学級におけるスヌーズレン教育の意義～交流及び共同学習に発展させた取組～」

② 10:50～11:10 ＜特別支援教育＞ **山崎 陽輝（新発田市立第一中学校）**

「ICT 機器を運動の代替手段とした肢体不自由児体育授業の手立てーＩｏＴ製品とタブレット型端末の活用を通してー」

③ 11:15～11:35 ＜特別支援教育＞ **山下 拓也（新潟県立月ヶ丘特別支援学校）**

「知的障害児を対象とした比較概念形成に関する指導ー学習形態に着目してー」

③ 13:10～13:30 ＜特別支援教育＞ **入澤 亜由美（刈羽村立刈羽小学校）**

「主体的・対話的で深い学びに向けた話合い活動についての一考察～特別支援学級における「クラス会議プログラム」の実践を通して～」

⑤ 13:35～13:55 ＜体育・保健体育＞ **大口 良平（糸魚川市立根知小学校）**

「小規模校における児童の「体育の見方・考え方を広げる」単元の開発～小学校 5・6 年生ゴール型「New Frisbee Soccer」の実践～」

⑥ 14:05～14:25 ＜体育・保健体育＞ **大森 千鶴（柏崎市立田尻小学校）**

「「心の成長の自覚」をきっかけに、思春期の成長を自分事として学ぶ授業の工夫」

⑦ 14:30～14:50 ＜体育・保健体育＞ **神戸 諒平（上越市立下黒川小学校）**

「仲間と走る、仲間とつなぐ面白さを実感できるリレー学習の在り方の検討－並走リレーにおける学びを従来のリレーへ生かす単元構成を通して－」

⑧ 14：55～15:15 ＜体育・保健体育＞ **河上 岳人（長岡市立中島小学校）**

「手洗いの習慣化を目指し,内発的動機付けと外発的動機付けの両面からアプローチした保健指導」

〇第四分科会

① 10:25～10:45 ＜教育方法一般＞ **青木 善治（国立大学法人滋賀大学）**

「教師の変容と省察を促す研修会の創造－校内授業研究研修会を通して－」

② 10:50～11:10 ＜教育方法一般＞ **名古屋 康秀（三条市立栄中央小学校）**

「自分を見つめ直し､自らの偏見に気付く子どもの育成～出会いと振り返りに焦点を当てた４年生の人権教育の実践から～」

③ 11:15～11:35 ＜教育方法一般＞ **水谷 徹平（長岡市立表町小学校）**

「タブレット端末を活用した「学校でしかできない学習活動」を目指した一実践」

④ 11:40～12:00 ＜学年・学校経営等＞ **小松 祐貴（糸魚川市立糸魚川中学校）**

「小中一貫教育を活かした授業研究による UDL の推進」

⑤ 13:10～13:30 ＜学年・学校経営等＞ **寺田 武文（新潟市立上山小学校）**

「地域とともにある学校づくりを目指した地域学校協働活動の推進－目標共有と重点化による連携・協働体制の構築を目指して－」

⑥ 13:35～13:55 ＜学年・学校経営等＞ **岩月 元汰（糸魚川市立田沢小学校）**

「初任者教師が捉える自信と成長に関する事例研究－校内研修における「振り返り記述」と「レポート」の分析を通して－」

⑦ 14:05～14:25 ＜特別活動＞ **金子 萌南（妙高市立斐太北小学校）**

「自治的能力を促進する手立ての研究－クラス会議の実践を通して－」

⑧ 14:30～14:50 ＜生活＞ **甫仮 直樹 （上越市立大手町小学校）**

「生活科における児童の探究と学びの深まりに関する事例的研究－対象にかかわって生まれる児童の情意的な側面に着目して－」

3.　学校及び地域社会との連携・支援１

教職員のための自主セミナー

＊水曜自主セミナー

学校の教育課題に応じたテーマで設定し，地域の教員や大学院生を対象とするセミナー

＊教師力向上セミナー

・若手セミナー【若手】　採用から５年目までの若手教員の教師力向上を目指すセミナー

・キャリアアップセミナー【CU】　新潟県の教員育成指標をもとに，それぞれのキャリアステージに必要なテーマを設定して、若手・中堅・ベテラン教員が相互に関わって、それぞれのキャリアアップを図るセミナー

開催時間；18 時 30 分～20 時　受講費無料

令和３年度 教職員のための自主セミナー 報告書

上越教育大学 学校教育実践研究センター　谷内　卓生

1　今年度の実施状況（ 3 月 14 日現在 ）

(1) セミナー全体

回数：143 回（昨年度 93 回）　参加人数：1, 498 人（昨年度 877 人）

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
1	4/14	水	学級経営の内容と学級担任の役割～指導力のある教師がしていること～	赤坂 真二	29
2	5/12	水	『拡張する学校』を上越で共につくる会～「いまだにここにない者」を学び合う～①	高橋 栄介　山住 勝広	12
3	5/12	水	書写指導セミナー①「初めて毛筆をもつ入門期指導」	荒川 圭子	7
4	5/12	水	通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒の指導と支援①	関原 真紀	6
5	5/19	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー①	長谷川 敬子　山口 美和	56
6	5/19	水	学校における食育の実践と評価①	野口 孝則	12
7	5/19	水	教育サークル Sky-High！①	野田 晴高	2
8	5/19	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会①	大場 浩正	4
9	5/19	水	生活科・総合の実践者に学ぶ①	高橋 栄介　荏戸 翠	41
10	5/26	水	子どもたちのスマホやタブレットの長時間接触による健康被害の実際と対策①	土田 了輔 ウッド・一美	7
11	5/26	水	社会科授業の会①	志村 喬	8
12	5/26	水	夕暮れ市街地の自然観察講座①	五百川 裕	9
13	5/26	水	通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒の指導と支援②	関原 真紀	9
14	6/2	水	子どもたちのスマホやタブレットの長時間接触による健康被害の実際と対策②	土田 了輔 ウッド・一美	8
15	6/2	水	学校における食育の実践と評価②	野口 孝則 他	5
16	6/2	水	図画工作科指導の基礎基本①	細井 一貞	7
17	6/2	水	学級ルールお悩み相談	清水 雅之	4
18	6/7	月	生徒指導を考える～荒れた中学校の実践から～	佐藤 賢治	2
19	6/9	水	通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒の指導と支援③	関原 真紀	15
20	6/16	水	街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星①	上越天文教育研究会	2
21	6/16	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー②	長谷川敬子　山口 美和	47
22	6/16	水	音楽科において　タブレットで何ができるの？	上越音楽教育研究会	17
23	6/16	水	学校における食育の実践と評価③	野口 孝則 他	2
24	6/16	水	生活科と「書くこと」の指導	上原 進	5
25	6/16	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会②	大場 浩正	2
26	6/23	水	社会科授業の会②	志村 喬	12
27	6/23	水	教育サークル Sky-High！①	野田 晴高	3
28	6/23	水	夕暮れ市街地の自然観察講座②	五百川 裕	7
29	6/23	水	授業づくりセミナー:国語科指導案構想	谷内 卓生	20
30	6/23	水	生活科・総合の実践者に学ぶ②	炭谷 倫子　金子 愛	31
31	6/29	水	どうする？保護者対応①	佐藤 賢治	2
32	6/30	水	学校における食育の実践と評価④	野口 孝則	2
33	6/30	水	GIGA お助けセミナー①	清水 雅之	8
34	6/30	水	読みの会「パステル」①	谷内 卓生	3
35	6/30	水	特別支援教育×ICT　活用学習会①	尾原 祥弘	2
36	6/30	水	『拡張する学校』を上越で共につくる会～「いまだにここにない者」を学び合う～②	高橋 栄介　山住 勝広	11
37	7/5	月	どうする？保護者対応②	佐藤 賢治	9
38	7/7	水	教育サークル Sky-High！②	野田 晴高	3
39	7/7	水	図画工作科指導の基礎基本②	細井 一貞	5
40	7/7	水	上越音楽授業研究サークル①	古見 友子	7
41	7/13	火	特別な支援が必要な児童生徒のためのキャリア教育①	佐藤 賢治	4
42	7/14	水	街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星②	上越天文教育研究会	3
43	7/14	水	学校における食育の実践と評価⑤	野口 孝則 他	7
44	7/14	水	特別支援教育×ICT　活用学習会②	尾原 祥弘	1

45	7/14	水	オンライン授業をやってみよう①	谷内 卓生	7
46	7/21	水	子どもたちのスマホやタブレットの長時間使用による健康被害の実際と対策③	土田 了輔 ウッド・一美	11
47	7/21	水	読みの会「パステル」③	谷内 卓生	6
48	7/21	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー③	長谷川 敬子 山口 美和	24
49	7/21	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会③	大場 浩正	2
50	7/28	水	社会科授業の会③	志村 喬	14
51	7/28	水	学級経営の基本とポイント～特別支援教育、外国語活動の視点から～	那須 博資 永島 悠一	3
52	7/28	水	授業づくりセミナー:算数科指導案構想	谷内 卓生	11
53	7/28	水	特別支援教育×ICT 活用学習会	尾原 祥弘	5
54	7/28	水	生活科・総合の実践者に学ぶ③	倉又 圭佑 中山 卓	36
55	7/28	水	特別な支援が必要な児童生徒のためのキャリア教育(下早川小学校)	佐藤 賢治	11
56	8/11	水	図画工作科指導の基礎基本③	細井 一貞	7
57	8/11	水	オンライン:ICT×education×SDGs②	菊地 徹	13
58	8/18	水	教育サークル sky-high！③	野田 晴高	2
59	8/18	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー④	小菅 江美	17
60	8/24	火	学級経営のリセット	佐藤 賢治	3
61	8/25	水	新学習指導要領に対する評価のあり方	杉谷 明 荒木 良則	10
62	8/25	水	図画工作科指導の基礎基本③	細井 一貞	7
63	8/25	水	上越国語同好会①	上越国語同好会	12
64	8/25	水	夕暮れ市街地の自然観察講座③	五百川 裕	10
65	8/27	金	読みの会パステル③	谷内 卓生	4
66	9/8	水	オンライン授業をやってみよう②(オンライン)	谷内 卓生	5
67	9/15	水	『拡張する学校』を上越で共につくる会～「いまだにここにない者」を学び合う～③	高橋 栄介 山住 勝広	22
68	9/15	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー⑤	長谷川 敬子 山口 美和	65
69	9/15	水	学校における食育の実践と評価⑥	野口 孝則 他	4
70	9/22	水	生活科・総合の実践者に学ぶ④	甫仮 直樹 高野真也	15
71	9/24	金	読みの会「パステル」④	谷内 卓生	7
72	9/28	火	上越国語同好会①	上越国語同好会	11
73	10/5	火	食育20①	佐藤 賢治	3
74	10/6	水	授業アイディア事務アイディア教えます	中野 博幸	3
75	10/6	水	GIGA お助けセミナー	清水 雅之	7
76	10/6	水	教育評価の基礎基本①	岡田 広示	4
77	10/6	水	特別支援教育×ICT	尾原 祥弘	2
78	10/6	水	街中でも観察できる季節ごとの星座と惑星	稲葉 浩一	4
79	10/6	水	人権教育、同和教育セミナーオンライン	上越地区同和教育研究協議会	29
80	10/11	月	食育20②	佐藤 賢治	5
81	10/13	水	人権教育、同和教育セミナーオンライン	上越地区同和教育研究協議会	37
82	10/13	水	新学習指導要領に対する評価のあり方	荒木 良則 杉谷 明	4
83	10/13	水	教育評価の基礎基本②	岡田 広示	4
84	10/13	水	学校における食育の実践と評価⑦	野口 孝則	2
85	10/20	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会⑥	大場 浩正	3
86	10/20	水	教育サークル sky-high！④	野田 晴高	2
87	10/20	水	オンライン授業をやってみよう③	谷内 卓生	4
88	10/20	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー	長谷川 敬子 山口 美和	36
89	10/25	月	特別活動を中核とした学級経営について	久保順	16
90	10/27	水	道徳教育セミナー 中学生対象	上廣道徳教育アカデミー	2
91	10/27	水	社会科授業の会④	志村 喬	10
92	10/27	水	学級づくりセミナー特別支援教育小学校英語からのアプローチ③	那須 博資 永島 悠一	1
93	10/27	水	上越国語同好会～授業実践情報交換③	倉又 圭佑 中山 卓	15
94	10/27	水	特別支援教育×ICT 活用学習会⑤オンライン	尾原 祥弘	1
95	10/27	水	総合学習づくりから始める学校力①	小林 晃彦	2
96	10/29	金	読みの会「パステル」⑤	谷内 卓生	9
97	11/8	月	『拡張する学校』を上越で共につくる会～「いまだにここにない者」を学び合う～④	高橋 栄介 山住 勝広	42
98	11/10	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会⑦	大場 浩正	2
99	11/10	水	書写指導セミナー②「攻略！書き初め指導法」	荒川 圭子	35

100	11/10	水	オンライン授業をやってみよう④	谷内 卓生	6
101	11/10	水	道徳教育セミナー　小学生対象	上廣道徳教育アカデミー	4
102	11/10	水	学校における食育の実践と評価⑧	野口 孝則	2
103	11/17	水	学校における食育の実践と評価⑨	野口 孝則	3
104	11/17	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー	長谷川 敬子　山口 美和	44
105	11/17	水	ICT 研修会音楽科においてタブレットで何ができるの?②	小島 淳	8
106	11/17	水	道徳教育セミナー　中学校対象	上廣道徳教育アカデミー	2
107	11/17	水	社会科授業の会⑤	志村 喬	16
108	11/19	金	読みの会「パステル」⑥	谷内 卓生	6
109	11/24	水	オンライン:ICT×education×SDGs②	菊地 徹	20
110	11/24	水	特別支援教育×ICT 学習会⑥	尾原 祥弘	1
111	11/24	水	教育サークル sky-high！⑤	野田 晴高	1
112	11/24	水	人権教育、同和教育セミナー対面	上越地区同和教育研究協議会	66
113	12/1	水	上越音楽授業研究サークル②	古見 友子	9
114	12/1	水	道徳教育セミナー　小学校対象	上廣道徳教育アカデミー	7
115	12/1	水	学級づくりセミナー特別支援教育小学校英語からのアプローチ④	那須 博資　永島 悠一	3
116	12/1	水	学校における食育の実践と評価⑩	野口 孝則	7
117	12/8	水	オンライン授業をやってみよう⑤	谷内 卓生	32
118	12/8	水	総合学習から始める学校力アップ	小林 晃彦	8
119	12/8	水	特別支援教育×ICT 学習会	尾原 祥弘	1
120	12/8	水	学校・大学・民間連携による STEAM 教育推進体制の確立	水落 芳明	4
121	12/15	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会⑧	大場 浩正	0
122	12/15	水	教育サークル sky-high！⑦	野田 晴高	1
123	12/15	水	これからの保育と幼小接続を考えるセミナー	長谷川 敬子　山口 美和	40
124	12/17	金	読みの会「パステル」⑦	谷内 卓生	7
125	12/22	水	特別支援教育×ICT 活用学習会オンラインセミナー	尾原 祥弘	0
126	1/12	水	マップで学ぶ問題解決	小川 亮	1
127	1/12	水	各教科等の授業における合理的配慮の設定手続きと内容例	笠原 芳隆	2
128	1/19	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会⑨	大場 浩正	2
129	1/19	水	プログラミング教育初歩の初歩と ICT 活用の考え方	大島 崇行	5
130	1/19	水	教育サークル sky-high！⑧	野田 晴高	2
131	1/21	金	読みの会「パステル」⑧	谷内 卓生	7
132	1/26	水	オンライン授業をやってみよう⑥	谷内 卓生	10
133	1/27	木	特別支援教育×ICT 活用学習会オンラインセミナー	尾原 祥弘	2
134	1/28	金	『拡張する学校』を上越で共につくる会～「いまだにここにない者」を学び合う～⑤	高橋 栄介　山住 勝広	35
135	2/9	水	マップで学ぶ問題解決②	小川 亮	3
136	2/16	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会⑩	大場 浩正	4
137	2/17	木	特別支援教育×ICT 活用学習会オンラインセミナー	尾原 祥弘	2
138	2/18	金	読みの会「パステル」⑨	谷内 卓生	9
139	2/23	水	オンライン:ICT×education×SDGs④	菊地 徹	9
140	3/9	水	プログラミングはじめの一歩～Python を体験しよう～	小川 亮	1
141	3/16	水	教育×ホワイトボード・ミーティングⓇ気軽な勉強会⑪	大場 浩正	1
142	3/16	水	社会科授業の会⑥	志村 喬	11
143	3/18	金	読みの会「パステル」⑩	谷内 卓生	9

(2) 教師力向上セミナー（若手教員向け）

回数：10 回（昨年度 6 回）　参加人数：194 人（昨年度 54 人）

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
1	4/14	水	学級経営の内容と学級担任の役割	赤坂 真二	29
9	5/19	水	生活科・総合の実践者に学ぶ①	高橋 栄介　荏戸 翠	41
17	6/2	水	学級ルールお悩み相談	清水 雅之	4
29	6/23	水	授業づくりセミナー:国語科指導案構想	谷内 卓生	20
30	6/23	水	生活科・総合の実践者に学ぶ②	炭谷 倫子 金子 愛	31
52	7/28	水	授業づくりセミナー:算数科指導案構想	谷内 卓生	11
54	7/28	水	生活科・総合の実践者に学ぶ③	倉又 圭佑 中山 卓	36
70	9/22	水	生活科・総合の実践者に学ぶ④	甫仮 直樹　高野真也	15
74	10/6	水	授業アイディア事務アイディア教えます	中野 博幸	3
82	10/13	水	新学習指導要領に対する評価のあり方	荒木 良則 杉谷 明	4

(3) 教師力向上セミナー（キャリアアップセミナー）

回数：25 回（昨年度 16 回）　参加人数：292 人（昨年度 341 人）

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
4	5/12	水	通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒の指導と支援①	関原 真紀	6
13	5/26	水	通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒の指導と支援②	関原 真紀	9
19	6/9	水	通常の学級における教育的ニーズのある児童生徒の指導と支援③	関原 真紀	15
24	6/16	水	生活科と「書くこと」の指導	上原 進	5
33	6/30	水	GIGA お助けセミナー①	清水 雅之	8
45	7/14	水	オンライン授業をやってみよう①	谷内 卓生	7
61	8/25	水	新学習指導要領に対する評価のあり方	杉谷 明　荒木 良則	10
66	9/8	水	オンライン授業をやってみよう②(オンライン)	谷内 卓生	5
75	10/6	水	GIGA お助けセミナー	清水 雅之	7
79	10/6	水	人権教育、同和教育セミナーオンライン	上越地区同和教育研究協議会	29
81	10/13	水	人権教育、同和教育セミナーオンライン	上越地区同和教育研究協議会	37
87	10/20	水	オンライン授業をやってみよう③	谷内 卓生	4
90	10/27	水	道徳教育セミナー　中学生対象	上廣道徳教育アカデミー	2
95	10/27	水	総合学習づくりから始める学校力①	小林 晃彦	2
100	11/10	水	オンライン授業をやってみよう④	谷内 卓生	6
101	11/10	水	道徳教育セミナー　小学生対象	上廣道徳教育アカデミー	4
106	11/17	水	道徳教育セミナー　中学校対象	上廣道徳教育アカデミー	2
112	11/24	水	人権教育、同和教育セミナー対面	上越地区同和教育研究協議会	66
114	12/1	水	道徳教育セミナー　小学校対象	上廣道徳教育アカデミー	7
117	12/8	水	オンライン授業をやってみよう⑤	谷内 卓生	32
118	12/8	水	総合学習から始める学校力アップ	小林 晃彦	8
120	12/8	水	学校・大学・民間連携による STEAM 教育推進体制の確立	水落 芳明	4
127	1/12	水	各教科等の授業における合理的配慮の設定手続きと内容例	笠原 芳隆	2
129	1/19	水	プログラミング教育初歩の初歩と ICT 活用の考え方	大島 崇行	5
132	1/26	水	オンライン授業をやってみよう⑥	谷内 卓生	10

(4) 研究プロジェクト成果発表会

回数：3 回（昨年度 15 回）　参加人数：11 人（昨年度 66 人）

No.	期日	曜	セミナーの内容	代表者・講師	参加数
120	12/8	水	学校・大学・民間連携による STEAM 教育推進体制の確立	水落 芳明	4
127	1/12	水	各教科等の授業における合理的配慮の設定手続きと内容例	笠原 芳隆	2
129	1/19	水	プログラミング教育初歩の初歩と ICT 活用の考え方	大島 崇行	5

2　アンケートの結果

(1) セミナーについて

1. そう思う　2. だいたいそう思う　3. どちらでもない　4. あまりそう思わない　5. そう思わない　(%)

No.	質問	1	2	3	4	5
1	自主セミナーは、教師力の向上に役立つものである。	90.6	8.9	0.5	0.0	0.0
2	自主セミナーは、学校の課題解決に役立つものである。	73.6	23.7	2.7	0.0	0.0
3	意欲的に取り組むことができた。	85.7	13.4	0.9	0.0	0.0
4	知識や技能を身につけることができた。	67.9	28.9	3.2	0.0	0.0
5	新しいアイディアが浮かんだ。	55.4	34.0	8.9	1.2	0.4
6	自主セミナーに参加して、いろいろな人とのつながりを持つことができた。	45.5	34.4	16.6	2.1	1.4
7	自分の持っている課題を解決することができそうだ。	41.0	43.7	13.2	1.4	0.7
8	自主セミナーの参加について負担感はない。	51.7	28.9	12.8	5.7	0.9
9	自主セミナーのテーマは、教師の願いやニーズに合っている。	71.8	25.1	2.5	0.5	0.0
10	自主セミナーをこれからも継続してほしい。	84.1	15.0	0.9	0.0	0.0

(2) 年齢と職種

No.	質問	%
1	20代	26.0
2	30代	23.0
3	40代	25.3
4	50代	22.6
5	その他	3.0

No.	質問	%
1	小学校教職員	50.8
2	中学校教職員	8.0
3	学部生	2.5
4	院生ストレート	10.2
5	院生現教職員	7.3
6	その他	21.2

(3) 記述

①4/14　赤坂真二先生「学級開きから学級じまいまでを経営する戦略」

・目的を持つためにも、自己分析を行い、子どもたちに一年後どのような姿になりたいのかを言語化していきたいです。そのためにも子どもたちと接し、実態を把握していきたいです。見通しを持てるように頑張りたいです。

・とても楽しくセミナーを受けることが出来ました。初めての学校、初めての担任、いろいろな初めてが多く、何から手を付けていいのかわからなかったので、今日のセミナーの目標、目的を明確にしながら、まずは子どもたちと笑顔で向き合っていきたいと思います。

② 5/26　ウッドー美先生　土田了輔先生「子どもたちのスマホやタブレットの長時間接触による健康被害の実際と対策」

・当校の児童も視力低下が増えてきているので、児童や保護者へどのような啓発をしたらよいか悩んでいました。「目を休ませる」等保健だよりに記載したいと思います。

・目の仕組み、見え方の仕組みが体験をすることでとても分かりやすかったです。スマホの長時間使用で目にこれだけの影響が出ているのだと知り、もっと身近な問題としてとらえなければならないと思いました。

③ 6/2　清水雅之先生「学級ルールお悩み相談」

・今の悩みがとても軽くなりました。思いきって話すことが出来て良かったです。子どもとのリレーションづくりを中心に、子どもと関わっていこうと思います。

・教師が意識できること、工夫できることがたくさんあるとわかりました。目線、ルール、リレーション等もっともっと工夫、意識していく、そしてそれを振り返る大切さが分かりました。

④ 6/16　上原進先生「生活科と『書くこと』の指導」
・大事なこと、私が知りたいことを具体的にたくさん教えていただき明日からの実践にすぐ生かせそうです。とっても勉強になりました。

⑤ 7/5　佐藤賢治先生「どうする?保護者対応」
・家庭が原因で子どもが変化することもあるので、子どもの思いだけではなく、親の思いも傾聴することが大切だとわかった。偏見を持たないだけではなく正しい確認ができるように様々な方位から話を聞きたいと思った。

⑥ 7/21　長谷川敬子先生、山口美和先生「これからの保育と幼小接続を考えるセミナー」
・「10 の姿」と言葉を聞くだけでも難しく考えてしまいがちでしたが、今日のセミナーに参加して子どもたちの遊び、生活の一場面から見えるところがたくさんあると気づくことが出来ました。子どもたちと目いっぱい遊び、自分自身も保育を思いきり楽しもうと改めて思うことが出来ました。

⑦ 8/25　細井一貞先生「図画工作科指導の基礎基本」
・多くの作品を見せていただき参考になりました。子どもにも多くの見本を見せていくことが大切だと思いました。彫り進み版画の仕組みが分かったことが大きな収穫でした。
・とても面白かったです。学年ごとにどのように題材や版の種類を選べばよいのかを詳しく教えていただきました。低学年はまず「楽しい事」が大切なのだとわかりました。現場に戻ったときに活かしていきます。ヘルプデスクやデータもありがたいです。

⑧ 10/6　中野博幸先生「授業事務アイディア教えます」
・今回教えていただいたアイディアを早速活用したいと思います。明日の仕事が楽しみになりました。ありがとうございました。

⑨ 10/20　谷内卓生先生「オンライン授業をやってみよう」
・jamboard をさわるのが初めてでしたが、とても可能性を感じました。どう蓄積して残し、あとで見直しができるようにするのかという点で教師も子どもも操作や機能の理解に磨きをかけなければいけないかなと思いました。

⑩ 11/8　髙橋栄介先生「拡張する学校」
・ありのままの子どもを受けとめる。任せることが現場では、意外と難しいように感じています。今日、山住先生の言葉を聞いて、あらためてそれでよいのだと子どもに向き合う姿勢をあらたにしました。ありがとうございました。
・学級経営をする上で、子どもを支配しようとすることを学級担任に求められる(静かにさせること、教師の言うことを聞くこと)気がしています。その違和感について本日の話を聞いて解放された気がします。また、学級にもどって子どもと考えていきたいと思います。ありがとうございました。

⑪ 11/24　尾原祥弘先生「特別支援教育×ICT 学習会」
・特別支援関係だけでなく、授業でも活用できそうなアプリをたくさん知ることができました。早速自分で使ってみたいと思います。ICT の可能性は無限大ですね。
・ICT も使い方次第でいくらでも可能性は広がっていくもので、子どもたちの学びの世界をどんどん広げてくれる便利な物なので、もっともっと教える側の知識やスキルを上げていきたいと思いました。

⑫ 12/1　小宮健先生「上廣道徳教育アカデミー道徳教育セミナー小学校」
・ありがとうございました。今日学んだことを生かして実際に「ぽんたとかんた」の授業を子どもたちの前でおこないたいと思います。また機会があったら参加させていただきたいです。

⑬ 12/1　古見友子先生「上越音楽授業研究サークル」
・音楽のセミナーでしたが、教科の枠にとらわれず、どの教科でも活かせそうなアイディア、活動例が多く大変有意義でした。ベテランの、先輩のお話を聞くことは、自分のスキルアップにつながると実感できたセミナーでした。こういう講座ぜひとも若い人に受講してほしいものです。

＜資料＞　上越教育大学「第３期中間目標」について

【中期目標】　人材養成機能や研究成果を活用して、地域の教育や文化の発展を牽引し、地域の学校現場における課題解決のために、地方自治体や教育委員会等の教育関係機関と連携し、地域社会の発展に貢献する。

【中期計画】　教育委員会等の教育関係機関と連携して、地域の現職教員の資質能力の向上を図るため、ICT、特別支援教育、英語、道徳等の教育課題に対応したキャリアアップ講習等を実施するとともに、学校において中核となる理科教員や通級指導担当教員等の養成・研修を積極的に進める。

【評価指標】　現職教員等を対象とした各種キャリアアップ講習（通級指導担当教員等の研修及び無償の講師派遣を含む）等の実施回数【第４期期間中における各年度の実施回数の平均を 170 回以上】

下の表には「各種キャリアアップ講習」の内容と回数・参加人数が示されている。本センターのセミナーは「自主セミナー」と表記されている。令和 2 年度は全体で 193 回の講習が行われ、このうち自主セミナーは 93 回であった。全体の半分を自主セミナーが担っている。

＜第３期中期目標期間中の現職教員等向けのキャリアアップ講習等の開催状況＞

区　分		H28	H29	H30	R1	R2	合計
自主セミナー	回数	50	91	104	109	93	447
	参加者数	1,133	1,691	1,452	1,090	877	6,243
サテライト講座	回数	6	10	7	7	7	37
	参加者数	確認中	確認中	310	173	297	780
新潟講座	回数	5	5	5	9	7	31
	参加者数	112	49	140	132	109	542
長野講座	回数	4	6	5	5	6	26
	参加者数	100	222	157	115	175	769
通級指導教室担当教員の養成・研修のための講習（NITSカフェ）	開設講習数					18	18
	参加者数					317	317
GIGA スクール構想の推進へ向けた ICT教員研修会（NITSカフェ）	開設講習数					1	1
	参加者数					21	21
学校で行うグローバル人材育成とこれから求められるミドルリーダーの資質・能力について（NITSカフェ）	開設講習数		2				2
	参加者数		88				88
上廣道徳教育アカデミー講師派遣	回数			83	122	62	267
	参加者数			2,730	2,852	1,382	6,964
合計	回数	65	114	204	252	193	828
	参加者数	1,345	2,050	4,789	4,362	3,157	15,703

３　成果と課題

(1) 参加者数の増加

今年度のセミナーの開催数と参加人数はいずれも大きく増加した。昨年度同様、対面での実施が制限されたにもかかわらず、開催数は過去５年間で最も多く、参加人数もコロナ禍の前と変わらない程度になった。これは、主催者や参加者のＩＣＴ機器の活用スキルが高まったことでオンラインやハイブリッドによるセミナーが増えたことが大きい。このことで上越市以外の教職員も、職場や自宅から気軽に参加できるようになった。あるセミナーでは産休の教員が自宅から参加する様子も見られた。ＩＣＴ機器を持っていなかったり苦手であったりする参加者に配慮しながら、今後もオンラインやハイブリッドのセミナーが円滑に実施できるようにしていきたい。

＜令和３年度の「教職員のための自主セミナー」の開催数と参加人数＞

	セミナー全体	教師力向上セミナー若手教員向け	教師力向上セミナーキャリアアップ	研究プロジェクト成果発表会
開催数	141 回（93 回）	10 回（6 回）	25 回（16 回）	3 回（15 回）
参加人数	1,488 人（877 人）	194 人（54 人）	292 人（341 人）	11 人（66 人）

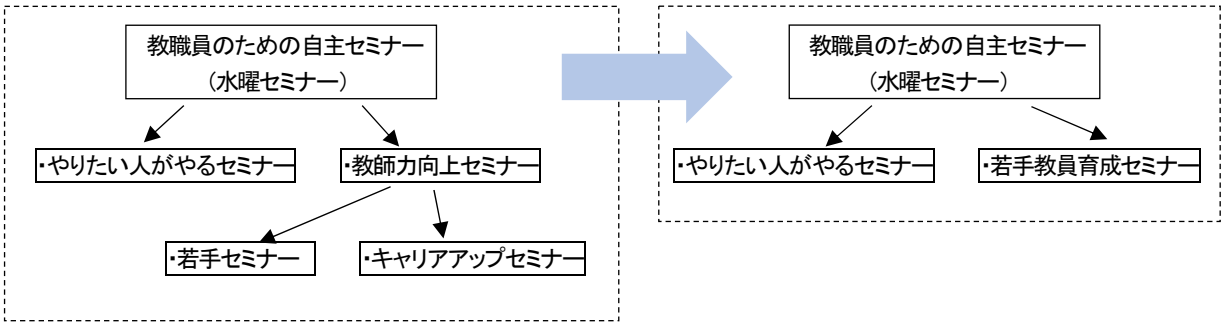
（　　）：令和２年度の数

(2) アンケートの方法と内容

参加者がセミナーに満足したかどうかを分析するにはアンケートが欠かせない。今年度のアンケート結果を見ると、どの項目も肯定的評価が高い。ただアンケートに答えた参加者は 561 名で全体の 38%に過ぎなかった。センターのホームページのトップに Google フォームを掲示するなど、より手軽にオンラインのセミナーでも答えられる方法を考えたい。内容に関しても、セミナーの形式（対面・オンライン・ハイブリッド）や地域（上越市等）などにも答えてもらい、セミナーの運営を見直す資料としたい。

(3) 自主セミナーのカテゴリーの見直し

教職員が自主セミナーを知るには、毎月発行される「センターだより」または「教師力向上セミナーのご案内」を読むか、センターのホームページを見るかしかない。そこには〇〇セミナーという言葉がが、自主セミナー、水曜セミナー、教師力向上セミナー、キャリアアップセミナー、若手セミナーと様々出てくる。きちんと読めば、自主セミナーとは、正式には「教職員のための自主セミナー」であり、通称「水曜セミナー」であることや、「教師力向上セミナー」が「若手セミナー」と「キャリアアップセミナー」の２つの総称であることが分かるのだが、本事業をよく知らない人には理解しにくい。加えて、自主セミナーが増えていること、研究が終了したことから、成果を上げた「教師力向上セミナー」を見直す時期に来ている。そこで来年度は、若手教員の研修の場を確保するため「若手セミナー」は継続し、「教師力向上セミナー」と「キャリアアップセミナー」というカテゴリーはなくすことにする。



４．学校及び地域社会との連携・支援２

学校評価アンケートシステム

学校評価支援アンケートを簡便に作成・実施し，分析ができる「学校評価支援アンケートシステム」を開発し，運用しています。教師に負担の多かった業務を軽減するとともに，精度の高い分析を行うことで，学校や学級の経営改善を図ることができます。また，上越市，妙高市，糸魚川市，柏崎市の学校であれば団体ＩＤの申請をするとアンケートシステムの使用ができます。

１．学校評価支援アンケートシステムの概要

平成 18 年度より，上越教育大学，上越市教育委員会，民間会社の産学官連携プロジェクトとして，自己評価のアンケート処理と分析を簡便に行い学校や学級の経営改善に生かせるような学校評価システムを開発し，学校支援を実施してきました。

これまでの 7 年間の研究・実践をもとに，上越教育大学で新たに開発したのが，「学校評価支援アンケートシステム」です。平成 25 年度より，学校現場 ，現職教員，本学教員並びに教員を目指す本学学生等が研究目的で利用することができるようになりました。学校評価アンケートだけでなく，様々なアンケート調査にも活用することが可能です。

学校評価支援アンケートシステムでは,「アンケート項目のスタイル提示」「アンケート集計」「統計解析」を行います。教師に負担の多かった業務を取り除くとともに精度の高い分析を行うことで，学校や学級の経営改善を図ることができます。

○ アンケートの作成

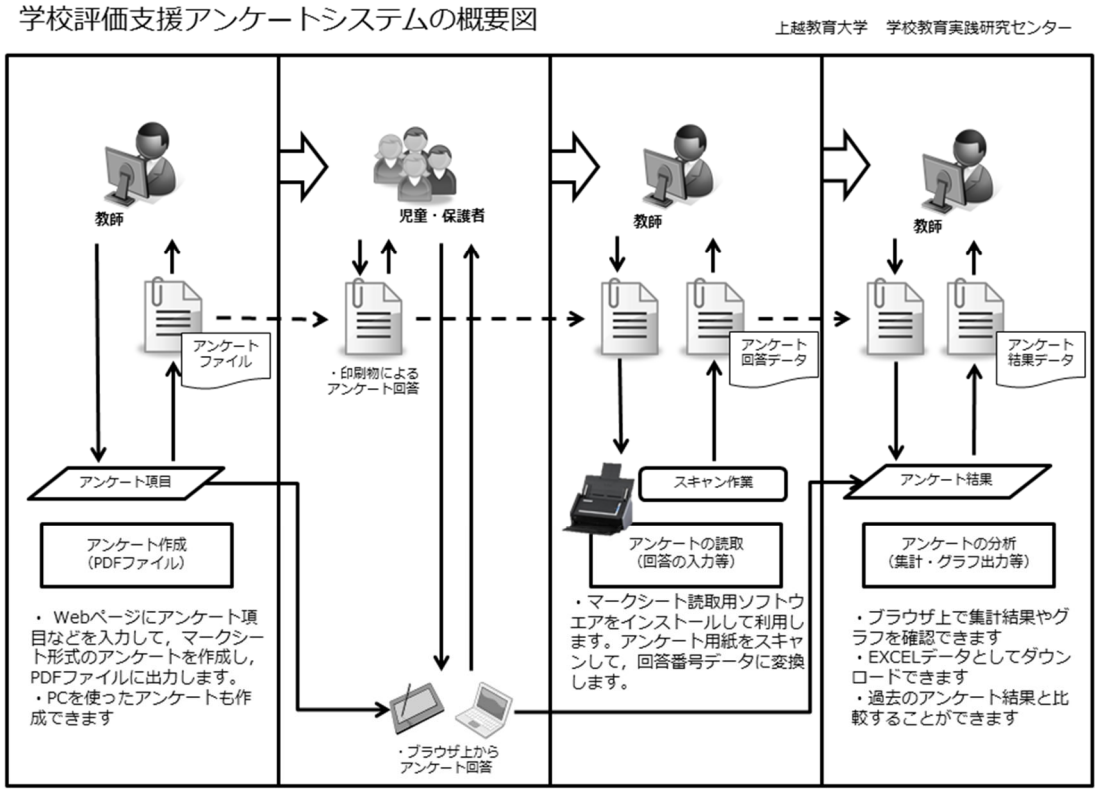
Web ページにアンケート項目などを入力して, マークシート形式のアンケートを作成し, PDF ファイルに出力します。

○ アンケートの読取

マークシート読取用ソフトウエアをインストールして利用します。アンケート用紙をスキャンして，回答番号データに変換します。

○ アンケートの分析

ブラウザ上で集計結果やグラフを確認できます。EXCEL データとしてダウンロードできます。過去のアンケート結果と比較することができます。



２．学校評価アンケートの実施

上越市内小中学校 13 校，妙高市立小中学校 5 校，糸魚川市内小中学校 0 校，柏崎市内小中学校 7 校の全 25 校，1 つの市教育センターが学校評価支援アンケートシステムの利用登録を行った。

■上越市	■妙高市
上越市立南本町小学校	妙高市立新井南小学校
上越市立大和小学校	妙高市立新井北小学校
上越市立春日小学校	妙高市立新井中央小学校
上越市立高志小学校	妙高市立妙高高原北小学校
上越市立戸野目小学校	妙高市立妙高高原南小学校
上越市立大町小学校	■柏崎市
上越市立直江津小学校	柏崎市立柏崎小学校
上越市立谷浜小学校	柏崎市立比角小学校
上越市立牧小学校	柏崎市立枇杷島小学校
上越市立大潟町小学	柏崎市立剣野小学校
上越市立南川小学校	柏崎市立新道小学校
上越市立大瀁小学校	柏崎市立田尻小学校
上越市立春日中学校	柏崎市立瑞穂中学校
	柏崎市立教育センター

３．学校評価アンケートシステム運用の終了

近年，Web を活用したアンケートを簡単に利用できるようになってきました。学校にも一人一台のタブレット端末が導入されたことで，学校評価アンケートも Web 上のシステムを活用して実施できるようになりました。

このようなことから，マークシート形式による本システムの運用を令和４年２月末をもって終了することといたしました。本システム運用にあたり，各学校や市町村教育委員会から多くのご支援とご協力をいただきましたことについてお礼申し上げます。

なお，本システム運用終了により，Web 上へのアンケートの登録などは行うことはできなくなりますが，マークシート用紙の読み取りソフトウエアは引き続きご使用いただけます。

ただし，読み取りソフトウエアのバージョンが古いため，予期せぬ不具合が起きる可能性があります。自己責任でご利用ください。

センター関係教員

中 野 博 幸（代表）

清 水 雅 之

渡 辺 径 子

荒 木 良 則

谷 内 卓 生

島 津 弘 次

杉 谷　　明

荒 川 圭 子

神 村 大 輔

長谷川敬子

森　　一 夫

大 野 雅 人

小 林 晃 彦

岩崎　　浩

土 田 了 輔

令和３年度

上越教育大学学校教育実践研究センター年次報告書

令和４年３月

発行　国立大学法人上越教育大学学校教育実践研究センター
新潟県上越市西城町１丁目７－２